

審査基準表

第1次書類審査（合格点 60 点）

	必須条件	加点点評価項目
1.提案の全体概要	<ul style="list-style-type: none">・本業務の目的・背景を理解している（10点）	<ul style="list-style-type: none">・財団の状況や外郭団体の事情、京都の社会情勢を深く理解した提案になっている（10点）
2.手法・プロセス	<ul style="list-style-type: none">・仕様書のスケジュールを理解している（5点）	<ul style="list-style-type: none">・独自のプロセス・手法の提案がされている（20点）・伴走提案が具体的である（20点）
3.業務遂行要件	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクトの管理方法や機密保持、個人情報保護の方針が明確（5点）・定期的な打合せ体制が示されており、財団側と連携しやすい推進体制である（10点）	<ul style="list-style-type: none">・主務者のリブランディング、MVV 策定（公共・非営利・まちづくり・京都分野等）の類似実績（5点）・見積書に用途の内訳が明示されており、支援内容、成果に対して妥当かつ実現可能な金額設定となっている（5点）・対面での支援可能性（5点）・独自の追加提案（5点）

第2次プレゼンテーション審査

	評価項目
1.提案の全体概要	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの目的やビジョンについて、財団側と熱量や方向性のずれがない（10点） ・提案内容に対する説明の納得感（10点）
2.手法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意見を引き出し、納得感を生み出す具体的な手法や工夫が提案されている（10点） ・複雑な状況や利害関係を理解しようとする姿勢、対話力、傾聴力（10点） ・財団に寄り添う伴走者としての姿勢や柔軟性が見られる（10点） ・MVP 策定を単なる言語制作ではなく、組織形成、合意形成プロセスとして捉えている（10点） ・当財団の特性、組織規模に適したプロセス、組織内合意形成へのアプローチの提案となっている（10点） ・リサーチ・分析の設計が論理的かつ実効性がある。（10点）
3.業務遂行要件	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール管理能力と課題解決力（10点） ・財団側とひとつのチームとして円滑に業務を遂行できる体制（10点）